

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 30日

スタッフ 9名

事業所名 児童発達支援センターはぐはぐ子ども村

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9		サーキット活動、会、言語学習などそれぞれの場所で活動できるスペースがある。	現状を維持していく。
	2 職員の配置数は適切である	9		基準より多い人数で一人一人に丁寧な声かけが出来るようにしている。	基準より多く配置し、職員が協力して療育にあたっている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9		絵や写真の活用することで視覚化され流れが分かりやすい。 おもちゃ箱の中身の写真が前面に貼ってある。 玄関までスロープになっている。	常に創意工夫し、特性に応じた配慮ができるよう日常的に点検を行っていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9		毎日掃除や消毒、換気を徹底している。 遊具が壊れたり危険なものがないかチェックしている。	一層の感染症対策を行い、安全な環境作りを進めていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9		朝礼やケース会議を実施し、全員が参加している。	職員が意見を言いやすい環境を維持していく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9		電話相談や保護者からの要望を皆で把握し、共通認識を持った上で療育している。	評価表の意見や保護者の要望などの情報を職員で共有し、改善に努めていく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9		ホームページで公開している。	現状を維持していく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		9		今後検討していく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9		ケース会議等で話し合い、対応の仕方など情報共有をしている。 交代で研修に行き、研修後は報告を行い職員で知識情報の共有をしている。	研修参加の機会を増やしていく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10		9	定期的実施されている。療育後記録を書きながら担当者が意見交換をし、次の指導を検討したりしている。	現状を維持していく。
	11		8	1 保護者から適切に聞き取りを行っている。標準化された評価ではないが評価ツールは使っている。	適正に実施している。
	12		9	具体的なわかりやすく内容が示されている。	ガイドラインに沿った支援計画の内容を確認しながら療育に活かしていく。
	13		9	朝礼やケース会議、毎日の記録記入時等に情報共有し支援へつなげている。毎回目標などを確認して支援に入っている。	全員で計画を確認しながら療育を行っていく。
	14		9	皆で話し合いを行っている。サーキット委員会を3ヶ月に1度実施。保育士、療法師などの各分野の意見をまとめて立案している。	連携しながら活動を支援していく。
	15		9	サーキットや活動は定期的に検討しながら計画実施している。月ごとの制作、餅つきや焼き芋、園外保育も取り入れている。	子どもの成長に合わせて活動内容を更新していく。
	16		9	サーキットの個別課題、特性に応じた活動の内容を工夫している。会議で話し合い、アドバイスを受けている。	現状を維持していく。
	17		9	朝礼などを利用し、個別カードの掲示、毎日の記録による目標の確認を行なっている。	現状を維持していく。
	18		9	毎日の記録を書きながら情報交換している。気になったことやその対応でよかったかなど話し合い、これからどうするかなど共有している。	現状を維持していく。
	19		9	それぞれの目標についての記録を残し、検証している。	現状を維持していく。
20		9	定期的に行い、ケース会議等を利用して見直している。	適宜見直している。	
関係機関や保護者との連携	21		9	児童発達支援管理責任者や施設長が参加している。	現状を維持していく。
	22		9	関係者の方が見学されることもあった。	常に関係機関と連携して支援を行っていく。
	23			該当なし	
	24			該当なし	
	25		9	保育所等訪問や担当者会議にて行っている。送迎時を利用し情報共有している。	情報の共有と相互理解は重要なので、積極的に関わりを持つようになっている。
	26		9	要望がある場合は情報提供している。情報共有している学校としていない学校がある。	担当者会議等を利用して連携していく。
	27		6	3 同法人内に支援事業所があり連携をとっている。	他事業所とはコロナの関係で実施できなかった。
	28		7	2 イベントの実施はできなかったが、保育園や幼稚園での交流はある。	併用利用が多いので、活動機会は普段からある。
	29		7	2 法人代表者が地域の会議等へ参加している。	現状を維持していく。
	30		9	コロナ禍で保護者の見学の機会が少なかった。支援計画の見直しの時に話をしたりしている。	コロナ禍の母子通園や個別見学の受け入れ、就学前相談等のあり方を検討していく。
	31		9	ペアレントトレーニングは従来は実施されていたが、コロナ禍の現在はできていない。	コロナ禍で機会は減ったが、面談等を通して支援を行っていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9		契約の児童発達支援管理責任者が丁寧に説明している。	現状を維持していく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9		契約書をもとに児発管が説明を行い、サインをもらっている。 迎えに来た保護者に当日の指導の報告をしたり課題についての家庭での協力を依頼することもある。	分かりやすく説明し、内容を理解してもらえるよう努めていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9		母子通園の機会がコロナ禍のため数回しか行えなかったが、相談を受け入れ、電話やメールで対応している。	コロナ禍で、母子通園等が減ったが、あらゆる機会を通して支援を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	6	母子通園後懇談会を開催していたが、コロナ禍にあり実施していないので、電話他で相談がある時応じている。	コロナ禍でも何らかの交流の機会を持てるよう検討する必要がある。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9		必要に応じて対応している。	相談内容を共有し、迅速に対応できるようにしていく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		年1回のニュースレターの発行、月1回のおたよりの配布等により、活動の様子や情報を発信している。	今後も積極的に情報発信に努めていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9		持ち出し禁止している。	社内研修を実施していく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9			わかりやすい伝達方法を工夫していく。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	3	年2回の交流の場を設けていたが、コロナ禍のため中止になっている。	コロナ禍の中でも工夫しながら行っていく。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9			マニュアルの見直しも含めて定期的に訓練を実施していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9		月1回地震・火災・風水害についての訓練、年1回集落センターへ送迎車を使つての訓練を実施している。	今後は保護者への連絡訓練も検討していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9		現在は無いが、以前は薬や病院の手配などの把握をしていた。 契約時に確認し職員へも周知している。	定期的な確認と周知を行っていく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9		年長になるとおやつ時間があるので、事前にアレルギーの確認を保護者にしている。	定期的な確認と周知を行っていく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	1	そういう事態が起きた場合、話し合い共有している。	他事業所の事例の収集を増やしていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9		研修に積極的に参加し、その後内容を全員で共有している。	全員が研修に参加できるようにしていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9		個別支援計画や契約書に記載し、児発管が契約時に丁寧な説明を行って、もしもそういう事態になった時の了解は得ている。	丁寧に説明し、保護者の理解を得ていく。